

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2 前期（大学教育入門セミナー）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育自己点検・評価専門委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 17(68%) 2. 7(28%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(4%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 13(52%) 2. 10(40%) 3. 2(8%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 12(48%) 2. 12(48%) 3. 0(0%) 4. 1(4%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 13(52%) 2. 12(48%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 11(44%) 2. 11(44%) 3. 3(12%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 12(48%) 2. 9(36%) 3. 3(12%) 4. 0(0%) 未回答 1(4%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 10(40%) 2. 11(44%) 3. 4(16%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 12(48%) 2. 12(48%) 3. 1(4%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 10(40%) 2. 12(48%) 3. 3(12%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 13(52%) 2. 9(36%) 3. 2(8%) 4. 0(0%) 未回答 1(4%)

B（Q11.～Q15）：FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。（複数回答可）

- 1.他教員の授業参観： 4（16%）
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 17（68%）
- 3.他大学のFD活動の視察： 1（4%）
- 4.その他： 3（12%）

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。（複数回答可）

- 1.他教員の授業参観： 6（24%）
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 18（72%）
- 3.他大学のFD活動の視察： 1（4%）
- 4.その他： 3（12%）

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：8クラス（順不同）

1. 今年は急遽オンデマンドでの開講になったので、昨年からの改善というより、昨年とは違った環境にどう対応するか、という観点から講義の内容や資料を大幅に変えました。
2. 期末レポートを個人型のプロジェクトにして、最初から自分の関心にしがって研究ができたのはよかった。昨年度までは、グループ活動に重きを置きすぎたため、レポートを個人で仕上げるという体験が薄かったので、改善が必要と思っていた。それが改善されたのはよかった。
3. 対面が減った分の対応を、コース一丸となって取り組んだこと。
4. 今年度は授業開始から遠隔講義で講義せざるを得なかったため、遠隔講義用の教材を工夫して作成した。今後、通常の講義に戻っても今回作成した教材を効果的に活用する予定である。
5. オンデマンドに対応した。
6. 1年生担任はこの科目のまとめをされている。
7. メールの書き方、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法については、昨年よりも時間を割いて内容をチェックし、学生に返した。
8. オンライン授業の構築に専念した。

■参考■

- ・遠隔講義で実施したため、単純な比較ができない。
- ・遠隔授業のため、改善されたかどうかわからない。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答：7クラス（順不同）

1. 学生のコメント内容からも概ね良い講義ができたと思っています。
2. 期末レポートを個人型のプロジェクトにして、最初から自分の関心にしたがって研究ができたのはよかった。昨年度までは、グループ活動に重きを置きすぎたため、レポートを個人で仕上げるという体験が薄かったので、改善が必要と思っていた。それが改善されたのはよかった。学生の活動は、おおむね良好だったが、一部の学生については、レポートが仕上がらないという事態となった。この辺りのバランスは今後考える必要がある。しかし、レポート作成を個人のプロジェクトにしたのはよかったと思われる。  
『モモ』の読書体験をもとにした活動は学生にとって大変良かったとおもう。また、留学生や留学体験者との交流の時間を持ったのもよかった。
3. 遠隔によって予習復習の管理と徹底は進んだ。レポートの評価の基準作りも進んだ。しかし、学生間の勉強の習慣の格差がくっきり出てしまい、フォローアップが足りなかったかとも思う。
4. 学生間のコミュニケーションを促す工夫が、学生にあてはまってよかった。
5. 県教育委員会との連携も進めることができ、昨年度と同様の成果を出すことができたこと。
6. 大学教育入門セミナーは入学生対象とする最初の導入科目であり、日程や講義回数（2回に分ける）を調整して対面での講義を実施すべきであった。講義終盤の2回は対面講義を実施したが、受講生のレスポンスが昨年度までと全く異なり、無反応な受講生が多数確認された。
7. 遠隔授業は準備が大変だった。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：0件

**C（Q16～Q18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 21（84%）      2.いいえ： 4（16%）      未回答： 0（0%）

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。（複数回答可）

- 1.聞いて理解する： 15（60%）
- 2.読んで理解する： 11（44%）
- 3.自分の考えをまとめて話す： 14（56%）
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 16（64%）
- 5.討論する： 10（40%）
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 11（44%）
- 7.その他： 0（0%）

Q18. 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：8クラス（順不同）

1. 今年はコロナの影響で討論やプレゼンテーションはできなかったが、その分、文章的な表現やまとめ方のコミュニケーションを重点的に学べた。
2. 他人の発表を聴いて、コメントすることを促した。ウェブクラスのチャット機能を使うことにより、多くの学生のコメントを見ることが出来大変良かった。
3. ブレイクアウトルームの活用（ルームごとの活動ののち終了後全体にむかって発表）。
4. Zoom 上でのブレイクアウトルームを活用した。その際、各ルームを見ながら発言を促進したり助言したりした。また、対面の際には、コミュニケーション能力そのものが副題として扱う内容だったこともあり、体験的なグループワーク（構成的グループエンカウンターの手法）を通してコミュニケーション能力を高めることができたと考えられる。学生の自省報告では、交流そのものの楽しみやコミュニケーションの具体的な在り方について理解が深まったことが挙げられた。
5. ビブリオバトル、ディベート、プレゼンテーションの大会を開催した。ディベートには、ゲストに県教委の指導主事らが参観し評価していただいた。ビブリオバトルとプレゼンテーション発表会は、コースの教員を集め審査に関わってもらった。
6. 新聞記事を読んで自分の意見を小レポートとしてまとめさせた。また、小レポートを学生同士で交換させて、レポートとしての完成度や不備を相互に評価させた。
7. 今年は恒例のディベート学習ができなかった。
8. 「個人プレゼンテーションを書くプレゼン」・「話すプレゼン」の両方を全ての学生が行った。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19. 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1. はい： 18 (72%)      2. いいえ： 7 (28%)      未回答： 0 (0%)

<Q19 で「はい」の方は Q20～Q22 にお答えください>

Q20. その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1. 1回～5回： 15 (83%)      2. 6回～10回： 2 (11%)      3. 11回～15回： 1 (6%)

未回答： 0 (0%)

Q21. 「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1. 歴史・文化： 6 (33%)      2. 政治・経済・産業： 11 (61%)

3. 自然環境・フィールド体験： 10 (56%)      4. その他： 3 (17%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動があれば記述してください。

回答：2クラス（順不同）

1. 五ヶ瀬町との協働研究プログラム。
2. 個人プレゼンテーションで、地域の課題解決について発表した。

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

- |                     |                       |                     |
|---------------------|-----------------------|---------------------|
| 1. 0%： 4 (16%)      | 2. 10%以内： 1 (4%)      | 3. 10%～20%： 3 (12%) |
| 4. 21%～30%： 4 (16%) | 5. 31%～40%： 0 (0%)    | 6. 41%～50%： 0 (0%)  |
| 7. 51%～60%： 2 (8%)  | 8. 61%～70%： 2 (8%)    | 9. 71%～80%： 2 (8%)  |
| 10. 81%～90%： 0 (0%) | 11. 91%～100%： 7 (28%) |                     |

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- |                        |                         |                    |
|------------------------|-------------------------|--------------------|
| 1. 少人数（10人程度）： 7 (33%) | 2. 双方向（対話・討論）： 12 (57%) |                    |
| 3. グループワーク： 14 (67%)   | 4. フィールド型： 1 (5%)       | 5. メディア活用： 7 (33%) |
| 6. TA活用： 1 (5%)        | 7. その他： 4 (19%)         |                    |

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1. 授業を英語のみで行っている： 0 (0%)
2. 授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)
3. 英語のみで板書している： 0 (0%)
4. 重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 2 (8%)
5. 英語のみの教材・資料を使用している： 1 (4%)
6. 一部英語併記の教材・資料を使用している： 6 (24%)
7. 英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
8. 学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
9. 宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 2 (8%)
10. 学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2 前期（情報・数量スキル）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育自己点検・評価専門委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 13(72%) 2. 5(28%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 10(56%) 2. 7(39%) 3. 1(6%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 11(60%) 2. 5(28%) 3. 1(6%) 4. 1(6%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 12(67%) 2. 6(33%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 9(50%) 2. 9(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 12(67%) 2. 3(16%) 3. 2(11%) 4. 1(6%) 未回答 0(0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 5(28%) 2. 7(38%) 3. 5(28%) 4. 1(6%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 9(50%) 2. 7(38%) 3. 1(6%) 4. 1(6%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 7(38%) 2. 9(50%) 3. 2(11%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 10(56%) 2. 7(38%) 3. 1(6%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

B (Q11.～Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 1 (6%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 12 (67%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 1 (6%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 0 (0%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 13 (72%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 1 (6%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：8クラス（順不同）

1. 今年度は遠隔授業となってしまったため、対面とできる限り変わらない内容を提供できるようにした。
2. 今年は遠隔講義のため、その対策としての改善であった。
3. 授業のオンライン化、オンライン形式によるグループワークの実施。
4. 新型コロナウイルス感染対策による授業時間の変更に応じて、授業計画と講義・演習の時間を調整した。
5. 今年度はオンデマンドの遠隔講義を行ったので、昨年度と実施方法が大きく異なった。
6. 遠隔授業を実施した。
7. 遠隔授業を取り入れた。
8. 遠隔化により実施方法が一から十まで変わったため、昨年の授業評価も何も、とにかく遠隔で授業を完遂することに主眼を置かざるをえなかった。

■参考■

- ・コロナの影響で比較することができない。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答：2クラス（順不同）

1. オンデマンドの講義で、質問等はメールで対応したが、学生には不十分だったかもしれない。
2. 初回体調を崩し講義ができず、他教員に迷惑をかけたことは大いに反省すべき点である。  
質問項目が対面講義を前提に作成されており、遠隔講義をせざるを得なかった今年の場合はマッチしていないように感じた。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：0件

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 14 (78%)      2.いいえ： 4 (22%)      未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 3 (21%)
- 2.読んで理解する： 3 (21%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 6 (43%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 6 (43%)
- 5.討論する： 0 (%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 4 (29%)
- 7.その他： 0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：6クラス（順不同）

- 1. 学生はWebclassのeポートフォリオを用いて各自プレゼンテーション動画をアップロードし、他の学生の動画を視聴して、相互に評価・コメントし合った。他の学生のプレゼンテーションで良かった点をまとめレポートとして提出した。
- 2. オンラインの会議室を利用して、5名から成るチーム内における発表会を実施した。
- 3. 収集したデータを図表としてまとめ、その結果を文書化させた。
- 4. 指定された時間内に自己紹介プレゼンテーションを行う。
- 5. 「自分史」のビデオを作成させた。(2クラス)

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 12 (67%)      2.いいえ： 6 (33%)      未回答： 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 12 (100%)      2.6回～10回： 0 (0%)      3.11回～15回： (0%)

未回答： 0 (0%)



Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

- 1.歴史・文化： 5（42%）      2.政治・経済・産業： 8（67%）  
3.自然環境・フィールド体験： 6（50%）      4.その他： 1（8%）

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動があれば記述してください。

回答：0クラス

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

- 1.0%： 4（22%）      2.10%以内： 0（0%）      3.10%～20%： 3（17%）  
4.21%～30%： 1（6%）      5.31%～40%： 2（11%）      6.41%～50%： 1（6%）  
7.51%～60%： 0（0%）      8.61%～70%： 1（6%）      9.71%～80%： 1（6%）  
10.81%～90%： 2（11%）      11.91%～100%： 3（17%）

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください（複数チェック可）

- 1.少人数（10人程度）： 3（21%）      2.双方向（対話・討論）： 3（21%）  
3.グループワーク： 2（14%）      4.フィールド型： 0（0%）      5.メディア活用： 11（79%）  
6.TA活用： 6（43%）      7.その他： 0（0%）

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 0（0%）  
2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0（0%）  
3.英語のみで板書している： 0（0%）  
4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 0（0%）  
5.英語のみの教材・資料を使用している： 0（0%）  
6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 2（11%）  
7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 1（6%）  
8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0（0%）  
9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 1（6%）  
10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0（0%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2 前期（英語）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育自己点検・評価専門委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 14(58%) 2. 9(38%) 3. 1(4%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 10(42%) 2. 14(58%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 6(25%) 2. 18(75%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 5(21%) 2. 17(71%) 3. 2(8%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 8(33%) 2. 15(63%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(4%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 10(42%) 2. 14(58%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 10(42%) 2. 12(50%) 3. 2(8%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 8(33%) 2. 16(67%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 8(33%) 2. 15(63%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(4%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 6(25%) 2. 18(75%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

B (Q11.~Q15) : F D活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 7 (29%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 13 (54%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 2 (8%)
- 4.その他： 10 (42%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 7 (29%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 13 (54%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 8 (33%)
- 4.その他： 10 (42%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：5クラス（順不同）

1. もともと大きかったクラスサイズが昨年度よりさらに大きくなり、増々個々の学生に目が行き届きにくくなっていた。グループ活動を多く入れることで昨年度はしのいだが、今年はコロナのために、グループ活動があまり入れられなかった。ほとんど全ての学生のアウトプットに対して、限定的ではあるが、教員がフィードバックを返した。多くが Excel 形式で出てくる学生のアウトプット一覧に対して、ある意味対面時よりも教員がフィードバックを返したと言えるが、とても機械的なものにすぎず、本来語学が目指すべき「人間のコミュニケーション」が実現できる状況ではなかった。(3クラス)
2. 急遽、遠隔授業となったため、昨年度とは全く異なる形態で実施した。
3. 改善というよりも、コロナに起因する遠隔という状況の中で、多くの点で、対面の授業に近づけることを目指すことに注力した。このクラスはクラスサイズも比較的小さく、遠隔による事前提出が促しやすくなった面があり、反転授業を進めて、教員からのフィードバックある程度返し、TOEIC の問題や教材の理解を深められた面はあったと思う。

■参考■

- ・本年度はコロナ禍の影響で全期間を通じ遠隔授業になったため、昨年度との比較ができない。(2クラス)
- ・授業が WebClass 上で行うことになったため、当てはまらないことだった。(2クラス)

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答：6クラス（順不同）

1. 限定的ではあるが、出来る限り Zoom を使って毎回ペアワークを行うようにした。(3クラス)
2. 慣れないながらも ZOOM と WebClass を使い、コミュニケーションが取れる方法を模索した。
3. 本年度はコロナ禍の影響で全期間を通じ遠隔授業になったため、昨年度との比較ができない。
4. 限定的ではあるが、出来る限り Zoom を使って毎回ペアワークを行うようにした。教員からのフィードバックを比較的丁寧に返した。その一方、グループワークは難しかった。

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2 前期（英語）

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：0件

**C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 24(100%)      2.いいえ： 0 (0%)      未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 19 (79%)
- 2.読んで理解する： 24 (100%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 17 (71%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 18 (75%)
- 5.討論する： 10 (42%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 8 (33%)
- 7.その他： 1 (4%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：8クラス（順不同）

1. 全て遠隔の状況で限定的ではあったが、毎回 Zoom を使ってペアワークを行い、英語を使って相手に伝える練習を行った。（4クラス）
2. 聞いて理解する点については、ビデオ鑑賞＋レポート、読んで理解する点については、小テストの形で確認、自分の考えをまとめて話す点については、音声（録音）の形で提出、文章に自分の考えをまとめる点については、課題英作を課す。
3. WebClass 掲示板を利用しピア・ラーニングを行った。（3クラス）

**D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。**

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 23 (96%)      2.いいえ： 0 (0%)      未回答： 1 (4%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1. 1回～5回： 0(0%)      2. 6回～10回： 0 (0%)      3. 11回～15回： 0 (0%)

未回答： 23 (100%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

- 1.歴史・文化： 0 (0%)      2.政治・経済・産業： 0 (0%)  
3.自然環境・フィールド体験： 0 (0%)      4.その他： 0 (0%)      回答なし

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動があれば記述してください。

回答：0 クラス

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1. 0%： 0(0%)      2. 10%以内： 0 (0%)      3. 10%～20%： 0 (0%)  
4. 21%～30%： 11 (46%)      5. 31%～40%： 0 (0%)      6. 41%～50%： 0 (0%)  
7. 51%～60%： 0 (0%)      8. 61%～70%： 1 (4%)      9. 71%～80%： 4 (17%)  
10. 81%～90%： 0 (0%)      11. 91%～100%： 6 (25%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください（複数チェック可）

- 1.少人数（10人程度）： 2 (9%)      2.双方向（対話・討論）： 11 (50%)  
3.グループワーク： 11 (50%)      4.フィールド型： 0 (0%)      5.メディア活用： 14 (64%)  
6.TA活用： 0 (0%)      7.その他： 7 (32%)

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 2 (8%)  
2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 15 (63%)  
3.英語のみで板書している： 2 (8%)  
4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 12 (50%)  
5.英語のみの教材・資料を使用している： 5 (21%)  
6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 19 (79%)  
7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 9 (38%)  
8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 10 (42%)  
9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 17 (71%)  
10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 5 (21%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2 前期（初修外国語）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育自己点検・評価専門委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 14(61%) 2. 9(39%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 17(74%) 2. 4(17%) 3. 2(9%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 14(61%) 2. 4(17%) 3. 5(22%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 20(87%) 2. 1(4%) 3. 2(9%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 14(61%) 2. 7(30%) 3. 2(9%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 16(70%) 2. 7(30%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 10(43%) 2. 7(30%) 3. 6(26%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 13(57%) 2. 10(43%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 13(57%) 2. 8(35%) 3. 2(9%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 3(13%) 2. 20(87%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 1 (4%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 9 (39%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 12 (52%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 10 (43%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 8 (35%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 7 (30%)
- 4.その他： 8 (35%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：7クラス（順不同）

1. 昨年度とは異なり、遠隔授業の対応に尽力した。
2. 丁寧に説明した。(2クラス)
3. 今年は初めて遠隔授業となったので、昨年の評価の改善と言っても、かなり違った形になった。口頭でのドイツ語についての説明と文章中心の説明とは非常に異なる。両社のメリット、デメリットがある。解かり易く説明するという点では、繰り返し読める文章による説明は効果的だったと思う。
4. 今年度は遠隔での実施になったため、昨年とは根本的に異なる形態の授業進行となった。慣れない遠隔授業ではあったが、できる限り学生の学びの姿勢に寄り添え、また、学習効果が上がるよう、最後まで改善を目指して取り組んだ。(2クラス)
5. 今年は初めての遠隔授業となったので、昨年の授業評価からの改善といっても、かなり比較しにくいですが、解かり易く説明するという点では、却って文章によるドイツ語の説明が、口頭よりも、印刷も可能で勉強し易かったかもしれない。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答：8クラス（順不同）

1. もっと丁寧な説明をするべきだった。
2. オンデマンド形式の授業の方法の中で自分なりに工夫を凝らした。
3. もっと優しく接すべきだった。
4. 問13でも書いたが、文章によるドイツ語の説明を、かなり明快に詳細に行ったら、授業内容の印刷も可能にしたので、学生にとって勉強し易かったと思う。反面、口頭で説明する方が適する発音の説明等は動画を利用して行ったが、不十分だったかもしれない。
5. シラバスに添った授業ができた。
6. 毎回、授業終了後に学生から簡単な（学生の負担にならないような）アンケートを回収し、学生の反応を見るようにした。質問も随時受け付け、それをその後の授業で説明するようにした。（2クラス）
7. 口頭でのドイツ語の説明と文章での説明はそれぞれメリット、デメリットがあるが、繰り返し読める点で文章説明の方が勉強しやすい面もあったと思う。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：0件

**C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 23(100%)      2.いいえ： 0 (0%)      未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。（複数回答可）

- 1.聞いて理解する： 21 (91%)
- 2.読んで理解する： 23 (100%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 11 (48%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 8 (35%)
- 5.討論する： 5 (22%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 5 (22%)
- 7.その他： 0 (0%)



Q18. 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：7クラス（順不同）

1. ドイツ語での会話のテストをする。（3クラス）
2. ドイツ文化の情報を皆で共有し合う掲示板形式での課題を課した。
3. ドイツ語に限らず、欧米語では、主語と動詞が肝要で、それらを正しく把握することで、伝達内容の要点が理解できることを強調した。
4. 自己紹介をしてもらったり、感想文を書いて発表してもらったりしました。
5. ドイツ語に限らず、欧米語においては、主語と動詞を素早くみつけることで、文章内容の根幹が容易に把握できることを強調した。ドイツ語の場合は、主語、動詞の関係が3種に限定されているので、これを説明し、把握を容易にできたと思う。

**D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。**

Q19. 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1. はい： 5 (22%)      2. いいえ： 16 (70%)      未回答： 2 (9%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20. その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1. 1回～5回： 5(100%)      2. 6回～10回： 0 (0%)      3. 11回～15回： 0 (0%)

未回答： 0 (0%)

Q21. 「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1. 歴史・文化： 0 (0%)      2. 政治・経済・産業： 0 (0%)

3. 自然環境・フィールド体験： 0 (0%)      4. その他： 5 (100%)

Q22. 「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動があれば記述してください。

回答：0クラス

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

Q23. 全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1. 0%： 2(9%)      2. 10%以内： 6 (26%)      3. 10%～20%： 0 (0%)

4. 21%～30%： 5 (22%)      5. 31%～40%： 2 (9%)      6. 41%～50%： 4 (17%)

7. 51%～60%： 1 (4%)      8. 61%～70%： 1 (4%)      9. 71%～80%： 0 (0%)

10. 81%～90%： 2 (9%)      11. 91%～100%： 0 (0%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください（複数チェック可）

- 1.少人数（10人程度）： 0（0%）      2.双方向（対話・討論）： 11（52%）  
3.グループワーク： 4（19%）      4.フィールド型： 0（0%）      5.メディア活用： 9（43%）  
6.TA活用： 0（0%）      7.その他： 1（5%）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 0（0%）  
2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0（0%）  
3.英語のみで板書している： 0（0%）  
4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 14（61%）  
5.英語のみの教材・資料を使用している： 0（0%）  
6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 0（0%）  
7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0（0%）  
8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0（0%）  
9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0（0%）  
10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0（0%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2 前期（保健・体育）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育自己点検・評価専門委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 3(30%) 2. 7(70%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 1(10%) 2. 9(90%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 0(0%) 2. 9(90%) 3. 0(0%) 4. 1(10%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 6(60%) 2. 3(30%) 3. 0(0%) 4. 1(10%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 0(0%) 2. 8(80%) 3. 2(20%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 0(0%) 2. 9(90%) 3. 1(10%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 0(0%) 2. 8(80%) 3. 2(20%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 1(10%) 2. 9(90%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 0(0%) 2. 7(70%) 3. 2(20%) 4. 1(10%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 0(0%) 2. 9(90%) 3. 0(0%) 4. 1(10%) 未回答 0(0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 6 (60%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 9 (90%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 7 (70%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 9 (90%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 1 (10%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：6クラス（順不同）

1. オンラインでの実技となったため、WebClassの活用はほぼ新規であった。WebClassによる実技動画の提示などにより、学生は何度も視聴できるというメリットもあったと考えられる。(6クラス)

■参考■

- ・今年度は遠隔での授業のため昨年とは内容が異なる。(2クラス)
- ・今年度は、新型コロナウイルスの影響により遠隔授業がほとんどであったため、学生とのコミュニケーションや質疑応答の機会が少なかった。今後は、より学生とのコミュニケーションを図る。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答：6クラス（順不同）

1. 限られた実技の中で楽しむ工夫や技術向上の工夫について、動画として作成した。また、学生とは主にWebClassの掲示板やメール（メッセージ）においてコミュニケーションを図ったが丁寧に対応した。  
反省すべき点は、WebClassによるオンデマンド方式であったが、学習教材の資料に書いてあることを読んでいない学生への対応について苦慮した。そのため、あらかじめ示す約束ごとをより細やかに（追加する）など規準をより明確にしておくことが求められると考えられた。(6クラス)

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：0件

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 8(80%)      2.いいえ： 2 (20%)      未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 1 (13%)
- 2.読んで理解する： 1 (13%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 0 (0%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 1 (13%)
- 5.討論する： 0 (0%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 0 (0%)
- 7.その他： 5 (63%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：6クラス（順不同）

1. メール（メッセージ）のマナーや文章の書き方についても指導した。（5クラス）
2. 遠隔授業の中でも、資料や動画を通して、学生が理解しやすい授業内容とし、課題として自分の考えを文章にしてまとめるというレポートを課した。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 2 (20%)      2.いいえ： 8 (80%)      未回答： 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1. 1回～5回： 0(0%)      2. 6回～10回： 0 (0%)      3. 11回～15回： 2 (100%)  
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

- 1.歴史・文化： 2 (100%)      2.政治・経済・産業： 0 (0%)
- 3.自然環境・フィールド体験： 0 (0%)      4.その他： 0 (0%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動があれば記述してください。

回答：2 クラス

1. 宮崎県健康アプリ SALKO の活用（2 クラス）

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

- |                     |                      |                    |
|---------------------|----------------------|--------------------|
| 1. 0%： 6(60%)       | 2. 10%以内： 1 (10%)    | 3. 10%～20%： 0 (0%) |
| 4. 21%～30%： 0 (0%)  | 5. 31%～40%： 0 (0%)   | 6. 41%～50%： 0 (0%) |
| 7. 51%～60%： 0 (0%)  | 8. 61%～70%： 0 (0%)   | 9. 71%～80%： 0 (0%) |
| 10. 81%～90%： 0 (0%) | 11. 91%～100%： 0 (0%) |                    |

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください（複数チェック可）

- |                      |                     |                 |
|----------------------|---------------------|-----------------|
| 1.少人数（10人程度）： 0 (0%) | 2.双方向（対話・討論）：0 (0%) |                 |
| 3.グループワーク：0 (0%)     | 4.フィールド型：0 (0%)     | 5.メディア活用：0 (0%) |
| 6.TA 活用： 0 (0%)      | 7.その他：0 (0%)        |                 |

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 0 (0%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)
- 3.英語のみで板書している： 0 (0%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 0 (0%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している：0 (0%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2 前期（専門基礎）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育自己点検・評価専門委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 29(91%) 2. 2(6%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(3%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 12(38%) 2. 16(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(6%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 11(34%) 2. 19(59%) 3. 1(3%) 4. 0(0%) 未回答 1(3%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 14(44%) 2. 17(53%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(3%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 8(25%) 2. 13(41%) 3. 8(25%) 4. 0(0%) 未回答 2(6%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 16(50%) 2. 15(47%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(3%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 5(16%) 2. 9(28%) 3. 15(47%) 4. 0(0%) 未回答 1(3%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 17(53%) 2. 11(34%) 3. 3(9%) 4. 0(0%) 未回答 1(3%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 13(41%) 2. 15(47%) 3. 2(6%) 4. 0(0%) 未回答 1(3%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 13(41%) 2. 18(56%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(3%)

**B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。**

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 4 (13%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 21 (66%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 5 (16%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 8 (25%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 24 (75%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 3 (9%)
- 4.その他： 5 (16%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：20クラス（順不同）

1. 高等学校での履修内容の差を考慮し、講義資料の作成を行った。
2. 今年度はオンデマンド実施だったので、単純に対応することはできないが、努力はした。
3. 前年と比較して大きく講義スタイルが変わったので、単純な比較はできないが、改善の努力はしたつもり。
4. 自主学习をしやすいするために、これまで演習課題の解答は略解だけであったが、詳しい解説を含む解答例にした。(4クラス)
5. 2019年度までは対面授業で行ったが、2020年度は リモート中心の授業、期末試験（筆記試験）だけ、対面授業でおこなった。そのため、教材は、大幅に書き換えた。授業の1週間前に、予習課題（成績評価なし）を WebClass に掲示し、8割以上の学生もレポート内容で学生の理解度を把握することができ、授業中課題に反映した。
6. 今年度は授業は全てオンデマンド動画配信により実施したので、昨年度までの経験を活かすきれたとは言い難い。ただ、対面で学生の反応を見ながら適宜補足説明をするようなことが出来ないのが、昨年度までの授業で学生から質問が来たような項目は、全て講義動画の中に折り込むことにした。(2クラス)
7. プリントの p 値の部分を書き足し理解しやすいようにした。
8. コロナ対応で部屋が広くなり、スライドが見えにくくなったため、講義スライドを予め大学クラウドにアップし、講義中はスマホでスライドを確認できるようにした。講義時間が短縮されたことに対応した。
9. 今年度はオンデマンドでの授業担当であったので、教材の改良に努めた。(3クラス)
10. 授業の趣旨を考え、食品科学への学生の興味を引き出せるよう授業の内容はかなり修正しました。1コマだけの担当なので、改善できることには限りがありますが。
11. オンラインのためグループワークが難しかったが、少しでも取り入れ実施した。
12. 遠隔授業の形式に対応出来るようになんとか作った。
13. 学生の意見を聞いた。
14. 教育学部の受講生から、化学的な内容は理解できないというクレームがあったので、一部、専門性の高い内容を削除した。



■参考■

- ・本年度は全ての授業をオンデマンド式で実施したため、ほぼ新規の授業と変わりありません。
- ・学生同士の対話を増やすつもりだったが、コロナの為できなかった。
- ・講義方式が on line となり全く異なったため、改善よりも新規取り組みに腐心した。
- ・今年はコロナ禍の影響で、講義が遠隔になり、またこの講義は留学生対象で受講生の半数が来日できないままのオンデマンド受講となったため、昨年度からの改善ではなく、まったく新しい講義環境への講義のアジャストが焦点だった。
- ・3回とも遠隔だったので、何とも言えない。（2クラス）
- ・今年度はコロナの影響で急遽オンデマンドになったので、昨年度に基づき何かを改善するのはかなりニュアンスが違って、ガラッと講義環境が変わった中でどう講義をするか、という面での講義の再構築になった。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答：26 クラス（順不同）

1. 積み上げ型の内容であるので、復習に力を入れ、積み残しが無いように課題や講義の冒頭の振り返りを充実させた点は、学生の評価にも反映されており、評価できる点と考える。
2. 統計学のような科目はオンデマンドでも十分できるという印象があります。
3. 今年度は感染症流行のため遠隔授業であった。そのため、学生の質問は、掲示板やメールなどの方法でしか受けることができなかった。（4クラス）
4. 予習課題の提出状況を把握し、まちがったレポートには個々にメールで「ヒント」を連絡した結果、リモートの授業中課題には、ほぼ受講生全員が、レポート提出することができた。
5. 講義動画視聴には日時制限を設けず、何度でも視聴可にしたので、やる気のある学生は復習がしやすかったようだ。一方で、不得手な学生は友達と相談する機会が無く、例年より苦勞したと思われる。アクティブラーニングに対応する学び合いの場をオンライン授業でどう作っていくのが反省点である。また、課題の分量も見直しが必要だと思う（多すぎたようだ）。（2クラス）
6. 配布プリントをPDF化するために、かなり内容を改定した。
7. 対面の75分授業の時は授業時間が不足する分を3回の中間レポートで補い、また遠隔授業の時は毎回レポートを課したが、レポートの問題設定、採点等が物凄く大変だった。
8. 学生からの意見やレポートのフィードバックに更に工夫を要すると感じた。
9. 今年はコロナの影響でグループワーク、アクティブラーニングができなかった。
10. この科目は、前任校でも担当をしており進め方はほとんど変えていない。コロナの関係でオンラインになったので、アンケートの調査票を細部まで見てアドバイスを送ることが難しかった。できる範囲で、学生への声掛けを行い理解不足な点をアドバイスなどできた。ただ、受講人数が多く、消極的な学生に目が届かなかったことは反省点である。（対面であれば顔見ながら指導が可能なので、学生に応じた指導ができたと思う。）
11. オンデマンド教材が、2本立てになったが、1本あたりの時間が少し長かった（25分程度）ので、今後、こうしたことがある場合は、1本あたりの時間を短くして、3本程度にして、その間にこなせる課題なども加えてみたい。
12. 教育機器の効果的活用で、興味関心を高める授業ができていると思います。
13. 実地指導教員へのwebclass利用や遠隔授業等についての説明に苦勞した。
14. オムニバスで担当しているので、回答ができない部分がある。
15. 下手な英語で実施した講義でしたので、動画にキャプションを入れてあげればよかったと反省しております。

16. 反省すべき点は特にないが、日本で学ぶことを期待していた1年生の留学生が、留学できないまま自国でオンライン講義をひたすら受けるのは環境的にキツイ学生もいたようで、数名ドロップアウトしてしまった。
17. 遠隔授業ではビデオなどを見せられないので、困った。
18. 事前に学生のグループを作成して臨むとよりグループワークが進めやすかったように思う。
19. 学生同士および学生との議論をあきらめてしまった。（2クラス）
20. 来年度は何としても対面でやりたい。
21. 自分の興味のある部分を強調し過ぎる。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：0件

**C (Q16~Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 11(34%)      2.いいえ： 20 (63%)      未回答： 1 (3%)

<Q16で「はい」の方はQ17~18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。（複数回答可）

- 1.聞いて理解する： 6 (55%)
- 2.読んで理解する： 8 (73%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 4 (36%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 7 (64%)
- 5.討論する： 2 (18%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 0 (0%)
- 7.その他： 0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：8クラス（順不同）

- 1.予習課題（授業1週間前から）について、学生の質問に丁寧に回答し、その結果をQ&Aとして、WebClassに掲示することによって、学生の「質問する」能力は、ある程度改善できたと考えられる。
2. 初回の講義が始まる前に計52ページのプリントを渡し、これを読んで理解の助けになるようにした。
3. ZOOMのグループワークにより、調査票の修正を学生同士で行った。意見交換、提案、反論などコミュニケーションを深め、成果として調査票を作成する過程であった。
4. オンラインであっても、グループディスカッション、アクティブラーニングを積極的に取り入れて授業を展開すること。
5. 聞いたり読んだりしたものを題材に自分の考えをまとめ、それをレポートに書き、レポートを他者と共有することで他者の説明方法を学んだ。
6. 難問を考えさせる。

7. 講義の受講をして、自分で調べて、それを元に自己の考えを構築して、レポートにまとめ、他者とレポート共有をすることで他者の説明手法や考えを学習する。という取り組みを行った。
8. あるテーマについて調べてまとめてレポートにして、そのレポートを他者と共有することで、他者の伝達方法を学ぶ。

■参考■

- ・オンデマンド実施だった今年は困難。
- ・今年は取ってしなかった。
- ・今年はやりたくてもできなかった。

**D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。**

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 8 (25%)      2.いいえ： 23 (72%)      未回答： 1 (3%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1. 1回～5回： 6(75%)      2. 6回～10回： 1 (13%)      3. 11回～15回： 1 (13%)

未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

1.歴史・文化： 2 (25%)      2.政治・経済・産業： 3 (38%)  
3.自然環境・フィールド体験： 4 (50%)      4.その他： 5 (63%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動があれば記述してください。

回答：5クラス

1. アンケートの調査票は、学生の興味関心があり、分析結果により地域改善が可能な学生が多数存在した。(分析が甘い学生もいるが、問題意識の立て方などは何度も考えさせたため、地域に役立つ内容であったから)
2. 地域として、宮崎の外国人の状況やそこから生まれるであろう課題などを授業内でも説明した。
3. 実地指導教員が附属学校での教育や歴史を説明した。
4. 環境を守りながら発展していくための考察。
5. 宮崎における環境問題や災害を紹介し、調査で宮崎に関することを取り入れることを勧めた。

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

**Q23.**全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1. 0%： 13(41%)      2. 10%以内： 2 (6%)      3. 10%～20%： 3 (9%)  
4. 21%～30%： 0 (0%)      5. 31%～40%： 0 (0%)      6. 41%～50%： 1 (3%)  
7. 51%～60%： 2 (6%)      8. 61%～70%： 1 (3%)      9. 71%～80%： 1 (3%)  
10. 81%～90%： 1 (3%)      11. 91%～100%： 5 (16%)

**Q24.**アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください（複数チェック可）

1. 少人数（10人程度）： 3 (16%)      2. 双方向（対話・討論）： 3 (16%)  
3. グループワーク： 2 (11%)      4. フィールド型： 0 (0%)      5. メディア活用： 7 (37%)  
6. TA活用： 0 (0%)      7. その他： 7 (37%)

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

**Q25.**次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1. 授業を英語のみで行っている： 0 (0%)  
2. 授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)  
3. 英語のみで板書している： 0 (0%)  
4. 重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 12 (38%)  
5. 英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)  
6. 一部英語併記の教材・資料を使用している： 11 (34%)  
7. 英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)  
8. 学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)  
9. 宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)  
10. 学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2 前期（ 専門教育入門セミナー ）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育自己点検・評価専門委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 2 (50%)    2. 1 (25%)    3. 0 (0%)    4. 1 (25%)    未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 2 (50%)    2. 1 (25%)    3. 0 (0%)    4. 1 (25%)    未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 1 (25%)    2. 2 (50%)    3. 0 (0%)    4. 1 (25%)    未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 2 (50%)    2. 1 (25%)    3. 0 (0%)    4. 1 (25%)    未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 2 (50%)    2. 1 (25%)    3. 0 (0%)    4. 1 (25%)    未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 2 (50%)    2. 1 (25%)    3. 0 (0%)    4. 1 (25%)    未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 0 (0%)    2. 2 (50%)    3. 1 (25%)    4. 1 (25%)    未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 1 (25%)    2. 2 (50%)    3. 0 (0%)    4. 1 (25%)    未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 0 (0%)    2. 2 (50%)    3. 1 (25%)    4. 1 (25%)    未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 1 (25%)    2. 2 (50%)    3. 0 (0%)    4. 1 (25%)    未回答 0 (0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観：1 (25%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加：2 (50%)
- 3.他大学のFD活動の視察：0 (0%)
- 4.その他：1 (25%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観：1 (25%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加：2 (50%)
- 3.他大学のFD活動の視察：0 (0%)
- 4.その他：1 (25%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：  2  クラス (順不同)

- 1 授業の趣旨を考え、食品科学への学生の興味を引き出せるよう授業の内容はかなり修正しました。1コマだけの担当なので、改善できることには限りがありますが。
- 2 今年はコロナ禍の影響で、講義が遠隔になり、またこの講義は留学生対象で受講生の半数が来日できないままのオンデマンド受講となったため、昨年度からの改善ではなく、まったく新しい講義環境への講義のアジャストが焦点だった。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：  2  クラス (順不同)

- 1 上にも書きましたが、下手な英語で実施した講義でしたので、動画にキャプションを入れてあげればよかったと反省しております。
- 2 反省すべき点は特にないが、日本で学ぶことを期待していた1年生の留学生が、留学できないまま自国でオンライン講義をひたすら受けるのは環境的にキツイ学生もいたようで、数名ドロップアウトしてしまった。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：  0  クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい：3 (75%)      2.いいえ：1 (25%)      未回答：0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する：2 (67%)
- 2.読んで理解する：2 (67%)
- 3.自分の考えをまとめて話す：0 (0%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる：3 (100%)
- 5.討論する：0 (0%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする：0 (0%)
- 7.その他：0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答： 1 クラス (順不同)

1 聞いたり読んだりしたものを題材に自分の考えをまとめ、それをレポートに書き、レポートを他者と共有することで他者の説明方法を学んだ。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい：1 (25%)      2.いいえ：3 (75%)      未回答：0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回：1 (100%)      2.6回～10回：0 (0%)      3.11回～15回：0 (0%)  
未回答：0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

- 1.歴史・文化：0 (0%)      2.政治・経済・産業：1 (100%)
- 3.自然環境・フィールド体験：1 (100%)      4.その他：1 (100%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 0 クラス (順不同)

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

**Q23.**全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0% : 1 (25%)      2.10%以内 : 1 (25%)      3.10%～20% : 1 (25%)  
4.21%～30% : 1 (25%)      5.31%～40% : 0 (0%)      6.41%～50% : 0 (0%)  
7.51%～60% : 0 (0%)      8.61%～70% : 0 (0%)      9.71%～80% : 0 (0%)  
10.81%～90% : 0 (0%)      11.91%～100% : 0 (0%)

**Q24.**アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）：0（0%）      2.双方向（対話・討論）：0（0%）  
3.グループワーク：0（0%）      4.フィールド型：0（0%）      5.メディア活用：3（100%）  
6.TA 活用：0（0%）      7.その他：3（100%）

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

**Q25.**次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.授業を英語のみで行っている：2（50%）  
2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：0（0%）  
3.英語のみで板書している：1（25%）  
4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：1（25%）  
5.英語のみの教材・資料を使用している：2（50%）  
6.一部英語併記の教材・資料を使用している：1（25%）  
7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：2（50%）  
8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：1（25%）  
9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：2（50%）  
10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：1（25%）



教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2 前期（環境と生命）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育自己点検・評価専門委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 11(44%) 2. 12(48%) 3. 0(0%) 4. 2(8%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 11(44%) 2. 12(48%) 3. 0(0%) 4. 2(8%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 6(24%) 2. 11(44%) 3. 4(16%) 4. 4(16%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 8(32%) 2. 13(52%) 3. 1(4%) 4. 3(12%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 8(32%) 2. 10(40%) 3. 4(16%) 4. 3(12%) 未回答 0(0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 9(36%) 2. 9(36%) 3. 2(8%) 4. 5(20%) 未回答 0(0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 6(24%) 2. 6(24%) 3. 3(12%) 4. 10(40%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 8(32%) 2. 12(48%) 3. 2(8%) 4. 3(12%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 6(24%) 2. 11(44%) 3. 6(24%) 4. 2(8%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 10(40%) 2. 11(44%) 3. 0(0%) 4. 3(12%) 未回答 0(0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 0 (0%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 15 (60%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 1 (4%)
- 4.その他： 3 (12%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 3 (12%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 19 (76%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 1 (4%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答： 10 クラス (順不同)

1. 3回とも遠隔だったので、何とも言えない。
2. 遠隔で行ったため、改善した点は無い。
3. オンラインのためグループワークが難しかったが、少しでも取り入れ実施した。
4. 遠隔授業に対応した講義資料とした。
5. 本年度はコロナの影響で講義を行っていない。
6. 遠隔授業の形式に対応出来るようになんとか作った。
7. 遠隔授業だったので、比較できない。
8. 学生の意見を聞いた。
9. 教育学部の受講生から、化学的な内容は理解できないというクレームがあったので、一部、専門性の高い内容を削除した。
10. 今年度はコロナの影響で急遽オンデマンドになったので、昨年度に基づき何かを改善するのはかなりニュアンスが違って、ガラッと講義環境が変わった中でどう講義をするか、という面での講義の再構築になった、

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答： 7 クラス (順不同)

1. 遠隔授業ではビデオなどを見せられないので、困った。
2. 事前に学生のグループを作成して臨むとよりグループワークが進めやすかったように思う。
3. 学生同士および学生との議論をあきらめてしまった。
4. 本年度はコロナの影響で講義を行っていない。
5. 学生同士で議論するしゅみをあきらめてしまった。
6. 来年度は何としても対面でやりたい。
7. 自分の興味のある部分を強調し過ぎる。

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2 前期（環境と生命）

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： 0 件

**C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 15 (60%)      2.いいえ： 10 (40%)      未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 6 (40%)
- 2.読んで理解する： 6 (40%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 5 (33%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 9 (60%)
- 5.討論する： 5 (33%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 3 (20%)
- 7.その他： 1 (7%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：5クラス（順不同）

1. 本年度はコロナの影響で講義を行っていない。
2. 今年はやりたいくてもできなかった。
3. 難問を考えさせる。
4. 講義の受講をして、自分で調べて、それを元に自己の考えを構築して、レポートにまとめ、他者とレポート共有をすることで他者の説明手法や考えを学習する。という取り組みを行った。
5. あるテーマについて調べてまとめてレポートにして、そのレポートを他者と共有することで、他者の伝達方法を学ぶ。

**D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。**

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 12 (48%)      2.いいえ： 12 (48%)      未回答：1 (4%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 12 (100%)      2.6回～10回： 0 (0%)      3.11回～15回： 0 (0%)  
未回答： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2 前期（環境と生命）

Q21. 「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1. 歴史・文化：1（8%）      2. 政治・経済・産業： 5（42%）  
3. 自然環境・フィールド体験： 12（100%）      4. その他： 0（0%）

Q22. 「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動があれば記述してください。

回答：3 クラス（順不同）

1. 環境を守りながら発展していくための考察
2. 宮崎における環境問題や災害を紹介したり、調査で宮崎に関することを取り入れることを勧めた。
3. 本年度はコロナの影響で講義を行っていない。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23. 全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

1. 0%： 8（32%）      2. 10%以内： 4（16%）      3. 10%～20%： 2（8%）  
4. 21%～30%： 2（8%）      5. 31%～40%： 0（0%）      6. 41%～50%： 1（4%）  
7. 51%～60%： 0（0%）      8. 61%～70%： 4（16%）      9. 71%～80%： 2（8%）  
10. 81%～90%： 1（4%）      11. 91%～100%： 1（4%）

Q24. アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1. 少人数（10人程度）： 3（18%）      2. 双方向（対話・討論）： 2（12%）  
3. グループワーク： 7（41%）      4. フィールド型： 0（0%）      5. メディア活用： 6（35%）  
6. TA 活用： 0（0%）      7. その他： 6（35%）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25. 次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1. 授業を英語のみで行っている： 0（0%）
2. 授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 2（8%）
3. 英語のみで板書している： 0（0%）
4. 重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 5（20%）
5. 英語のみの教材・資料を使用している： 0（0%）
6. 一部英語併記の教材・資料を使用している： 3（12%）
7. 英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 2（8%）
8. 学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 1（4%）
9. 宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 2（8%）
10. 学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 1（4%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2 前期（学士力発展科目）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育自己点検・評価専門委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 2353(%) 2. 17(40%) 3. 2(5%) 4. 1(2%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 16(37%) 2. 23(53%) 3. 4(9%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 12(28%) 2. 22(51%) 3. 7(16%) 4. 2(5%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 20(47%) 2. 19(44%) 3. 3(7%) 4. 0(0%) 未回答 1(2%)

Q5. 学習意欲や知的的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 13(30%) 2. 23(53%) 3. 7(16%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 18(42%) 2. 22(51%) 3. 2(5%) 4. 0(0%) 未回答 1(2%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 13(30%) 2. 17(40%) 3. 12(28%) 4. 1(2%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 13(30%) 2. 27(63%) 3. 2(5%) 4. 0(0%) 未回答 1(2%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 17(40%) 2. 18(42%) 3. 8(19%) 4. 0(10%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 14(33%) 2. 26(60%) 3. 2(5%) 4. 1(2%) 未回答 0(0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 8 (19%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 32 (74%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 7 (16%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 20 (47%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 29 (67%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 6 (14%)
- 4.その他： 5 (12%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：10クラス（順不同）

1. 板書は意識的に丁寧にするよう心掛けた。
2. オンラインでの実技となったため、WebClassの活用はほぼ新規であった。WebClassによる実技動画の提示などにより、学生は何度も視聴できるというメリットもあったと考えられる。(3クラス)
3. 博物館への興味関心を喚起するために、様々な分野の博物館を系統的に紹介する内容を取り入れた。
4. 学生の自習負担の軽減。
5. スクーリングの対面授業をオンラインで行った。1から教材等をオンライン用に作成した。コロナ禍のICTの地域活用とした。
6. 今年度は遠隔での実施になったため、昨年とは根本的に異なる形態の授業進行となった。慣れない遠隔授業ではあったが、できる限り学生の学びの姿勢に寄り添え、また、学習効果が上がるよう、最後まで改善を目指して取り組んだ。
7. 今年はコロナのため、グループ活動を多く行っていたこれまでの授業形態を、多くの内容についてオンデマンド型で提供した。台湾とのビデオ通信は、コロナのために、日本側はZoomに慣れており、また学生が主に自宅から参加したため、教室で音声ハウリングを起こすトラブルがなくなり、その点スムーズに出来た。
8. 課外活動として、コロナ禍で特別に提供されていたCoursera on Campus (MOOC)に参加し、アカデミックな講義を聞く練習の場として利用した。

■参考■

- ・遠隔授業だったので、比較するのは難しい。(5クラス)
- ・遠隔授業の形でしたので、昨年とは全く授業方法もしんどさも違いました。
- ・昨年度の評価に基づくよりも、初めての遠隔への対応に追われた感がある。
- ・遠隔授業であったこと、受講者数が、25名程度から10名に縮小されたことについて、賛否両論ある。よい点、そうでない点両者あるため、一概に昨年度とは比較が難しい。
- ・今年度は、新型コロナウイルスの影響により遠隔授業がほとんどであったため、学生とのコミュニケーションや質疑応答の機会が少なかった。今後は、より学生とのコミュニケーションを図る。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答：19クラス（順不同）

1. ①遠隔授業という受講環境の中で学生の集中力を高めるために、担当教官によるキャリアデザイン講座とゲスト講師によるキャリアパス講座の2部制で授業を構成して、メリハリをつけて講義を進めた。②遠隔授業という聴講は中心になる講義においても、感想や気づき、質問等を積極的に思考するように、毎回の講義受講レポートを課した。（90分→75分の短縮授業の中でも、不足の15分程度の振返りの時間に充当させた。）③遠隔授業という初の講義に対して、ご担当いただくゲスト講師がうまくお話いただけるように、事前調整・打ち合わせを入念に行い、講義中は大型画面で受講生を映し出し臨場感のある雰囲気出しに注力した。

『反省点』

対面式に比較して、まだまだ受講生との対話や質疑応答が不足しており、受講生の理解度や納得感をつかめていない。レポート提出も課したが、期間が空くと印象が薄れてしまう傾向にある。その時その時の瞬間の感じ方を大事にしたいと思っているので、遠隔でもどうしたらそれができるか？考える必要がある。75分の制約の中で、時間超過が多々あった。遠隔授業と講義時間短縮で、直接的なアクティブラーニングができなかった。但し、Webexを使っの質疑応答は活発に行えたと思う。次年度は対面式で積極的に活用したい。

2. 遠隔授業日は予定通り完全に消化して授業の開始、終了は時間を厳守した。また学生のメールによる質問には、どんな質問に対しても回答日時を厳守し、丁寧に分かり易く回答することに心掛け全問回答した。新型コロナウイルスの感染防止のためとは言え、マスクをした状態で講義を聴講する学生諸君は、聞き辛い場面もあったかと思うと申し訳ない気がする。
3. 慣れるまでしんどかった。
4. わかりやすいPDF資料を作りたい。
5. 疲労困憊。がんばりました。
6. 遠隔授業のため毎回レポートを課したが、レポートの問題設定、採点等が物凄く大変だった。（2クラス）
7. 遠隔は初めての試みであったため最初の設定に苦労した。
8. 限られた実技の中で、楽しむ工夫や技術向上の工夫について、動画として作成した。また、学生とは主にWebClassの掲示板やメール（メッセージ）においてコミュニケーションを図ったが丁寧に対応した。  
反省すべき点は、WebClassによるオンデマンド方式であったが、学習教材の資料に書いてあることを読んでいない学生への対応について苦慮した。そのため、あらかじめ示す約束ごとをより細やかに（追加する）など規準をより明確にしておくことが求められると考えられた。（4クラス）
9. 問13でも述べたように、博物館の紹介を系統的にしたこと、HPの紹介だけでなく、館の設立の経緯説明なども行った点が評価できる。
10. 遠隔授業の良いところもあるが、対面が望ましい。
11. 毎回、授業終了後に学生から簡単な（学生の負担にならないような）アンケートを回収し、学生の反応を見るようにした。質問も随時受け付け、それをその後の授業で説明するようにした。
12. 台湾とのビデオ通信は、台湾側とのこれまでのノウハウの蓄積と、コロナの不幸中の幸いとして音声上の問題が軽減されたことで、スムーズに実施できた。また、コロナ禍で特別に実施されていたCoursera on Campus (MOOCs)のプログラムに参加し、学生の中にはCourseraのコースを修了する人もあった。（2クラス）

13. ZOOM 機能での動作、クラス運営が少人数であったため、比較的スムーズにできたが、50人越えのクラスでは、果たしてどうか、疑問が残る。

14. 問12（や問11）など、担当している複数の科目それぞれで設問として設定されているのに違和感を感じる。

Q15. FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：1件

**C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

Q16. 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1. はい： 33(77%)      2. いいえ： 10 (23%)      未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17. 下記のどの点を重視しましたか。（複数回答可）

- 1. 聞いて理解する： 21 (64%)
- 2. 読んで理解する： 22 (67%)
- 3. 自分の考えをまとめて話す： 13 (39%)
- 4. 自分の考えを文章にまとめる： 15 (45%)
- 5. 討論する： 6 (18%)
- 6. 皆の前でプレゼンテーションする： 3 (9%)
- 7. その他： 8 (24%)

Q18. 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：15クラス（順不同）

- 1. キャリアデザインの中で、学生時代に習得すべきスキルの中に『コミュニケーションスキル』があることを授業の1コマをかけて講義している。ゲスト講師にも社会人になって求められるスキルは、第1優先としてコミュニケーション能力であることを改めてお話いただいた。ワークシートを用いての演習も行った。
- 2. 学生各自の地元紹介レポートを作成提出させ、その全てを全員の受講学生に公開することで、地域の理解・他の学生のプレゼンから学ぶことも多かったと思います。
- 3. 講義の初回に計42(52)ページのプリントを渡し、これを読んで理解の助けになるようにした。（2クラス）
- 4. 遠隔授業の中でも、資料や動画を使って、学生が理解しやすい授業内容にし、課題として自分の考えを文章にしてまとめるというレポートを課した。
- 5. メール（メッセージ）のマナーや文章の書き方についても指導した。（3クラス）
- 6. オンラインになったということで、海外（韓国）の協定校のクラスと繋ぎ、オンライン異文化交流を行った。
- 7. この授業では聞き書きをしています。
- 8. オンライン上でできるだけ音声と文章で行った。
- 9. 会話（聞き取り話す）能力の育成。



10. オンラインで、日本を含むアジアの3カ国の学生がオンラインでやり取りをする6週間のプログラムを実施した。  
一部ビデオ通信を行った。（2クラス）
11. WebClass 掲示板を利用しピア・ラーニングを行った。

■参考■

- ・例年だと課題英文を読ませて読解力を育成するなどの活動を行っているが、今年は難しかった。
- ・今年度は遠隔授業を実施のため「コミュニケーション能力の育成」については、特別な取り組みは講じなかった。
- ・オンデマンド形式だったので難しかった。

**D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。**

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 15 (35%)      2.いいえ： 28 (65%)      未回答： 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1. 1回～5回：9 (60%)      2. 6回～10回：3 (20%)      3. 11回～15回：3 (20%)

未回答：0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化：9 (60%)      2.政治・経済・産業：9 (60%)

3.自然環境・フィールド体験：7 (47%)      4.その他：7 (47%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動があれば記述してください。

回答：4クラス

1. 地域（宮崎）を舞台にアグレッシブの活動する方をゲスト講師に招き、キャリアパスを語っていただきながら、一方で、宮崎においてこのような元気な企業や貢献できる団体、組織のあることを紹介している。
2. 今年度は、地域（大分）を取り上げて、地域の特徴（自然、人文環境、産業、歴史、文化（特に飲食文化）、観光など多面的に地域の魅力を取り上げて解説し、地域振興のあり方について考えてもらいました。
3. 県内博物館の活動や授業期間に行われている展覧会等の紹介。自ら調査経験を有する宮崎県の文化財(美術・工芸)についての紹介。
4. 世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会と連携し、聞き書きを行い、地域の人々の語りを収集している。

■参考■

- ・上の質問項目に、「社会」や「生活」をいれていただきたい。それらは文化に入るかもしれないが、社会課題的な内容の場合、どれに入れてもそぐわず、その他になる。

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

**Q23.**全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1. 0%： 15(35%)      2. 10%以内： 7 (16%)      3. 10%～20%： 2 (5%)  
4. 21%～30%： 9 (21%)      5. 31%～40%： 0 (0%)      6. 41%～50%： 0 (0%)  
7. 51%～60%： 0 (0%)      8. 61%～70%： 0 (0%)      9. 71%～80%： 2 (5%)  
10. 81%～90%： 5 (12%)      11. 91%～100%： 0 (0%)

**Q24.**アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください（複数チェック可）

1. 少人数（10人程度）： 6 (24%)      2. 双方向（対話・討論）： 11 (44%)  
3. グループワーク： 3 (12%)      4. フィールド型： 3 (12%)      5. メディア活用： 9 (36%)  
6. TA活用： 0 (%)      7. その他： 7 (28%)

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

**Q25.**次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1. 授業を英語のみで行っている： 0 (0%)  
2. 授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 12 (28%)  
3. 英語のみで板書している： 0 (0%)  
4. 重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 10 (23%)  
5. 英語のみの教材・資料を使用している： 1 (2%)  
6. 一部英語併記の教材・資料を使用している： 15 (35%)  
7. 英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 5 (12%)  
8. 学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 3 (7%)  
9. 宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 9 (21%)  
10. 学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 4 (9%)